

倫理プリント

バラモン教

インドの宗教

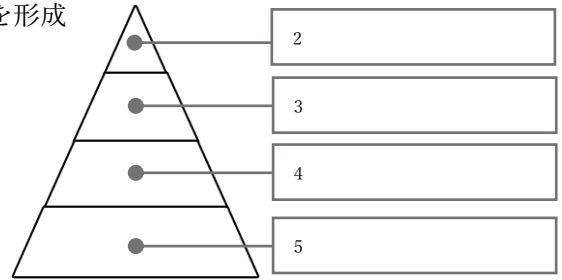


(i) 仏教以前の思想

■ **バラモン教** … インドで形成された宗教。自然界の現象を神格化した多神教であり、仏教の基となった。

前 15c 頃 アーリア人のインド侵入 → インドの思想と文化を形成

前 10c 頃 社会的身分制度 ([1])が発達



カースト制度

- ・皮膚の色による差別と職業差別が組み合わさった身分制度
- ・階級によってつくることが出来る職業も固定化される
- ・現在は憲法で禁止しているが、所々に根強く残っている
- ・ブッダやヴァルダマーナはクシャトリア、ガンディーはヴァイシャ出身


■ **バラモン教の思想** … バラモンのみが神々への知識を保持し、儀礼をおこなう。

聖典『6] : 紀元前 1000 年頃から紀元前 500 年頃にかけてインドで編纂された宗教文書の総称。
「ヴェーダ」とは、元々「知識」という意味。

※このヴェーダの一部で、哲学的部門をなすものを[7] (奥義の書)といい、
バラモン教の根幹をなす高度な哲学的思想について記載されている。→これらを研究する学問がウパニシャッド哲学

思想の内容

★[8]] : 「生あるものは全て、生まれては死に、死んでは生まれを繰り返す。」という考え方。
しかし、自分が来世どう生まれ変わるかはわからず、現世での行為=[8]]([9])によって決まる。

Think ● これを信じている人はどうなるだろう… 

↓ 輪廻の循環から解き放たれることを[10]]といい、どうしたらこれができるか?という問いが生まれる。

* [11]] () = 宇宙の究極的原理 (宇宙の全ての物を作った絶対的で永遠不変なもの)

* [12]] () = 生まれ変わっても変わることの無い、個人の内にある自我のようなもの

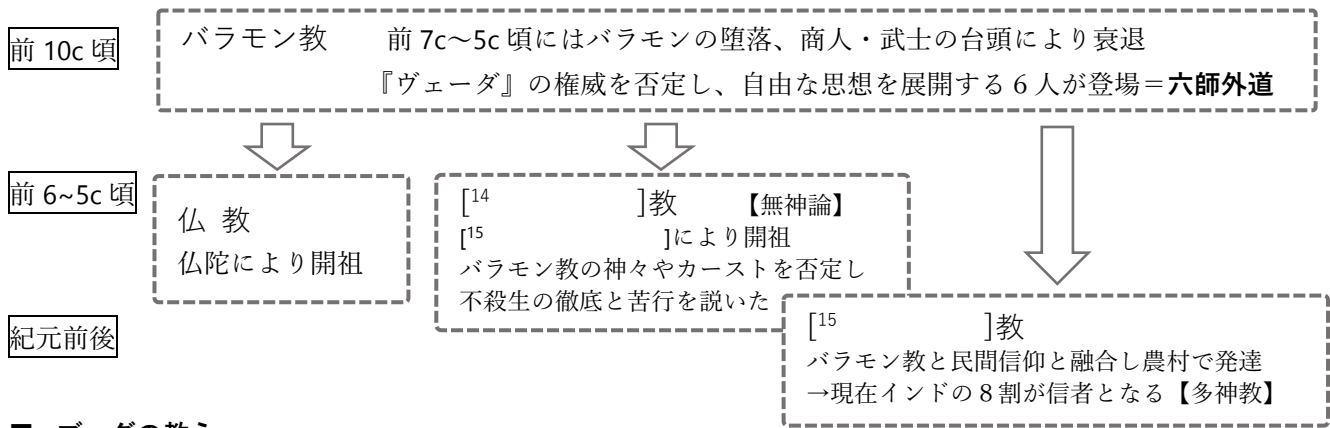
この 2 つは本質的には同一である =[13]]

自我があるから死後も魂が巡り輪廻転生してしまう。しかし、1 秒前の自分と今の自分が変化しているように肉体や精神は変化し続けるもの。結局、自我は幻に過ぎず、宇宙の物質の一部に過ぎないという考え方。

徹底した苦行(断食・いばらの上で寝る・立ちっぱなし etc)により両者が一体であると悟る境地に至れば、輪廻から脱出できる!と説いた。

前 7c~5c 頃 多くの都市、国家が形成 → 富を蓄積した王侯や商工業者の力が強まりバラモン衰退

(ii) バラモン教から仏教へ



■ ブッダの教え

ゴータマ=シツダッタ ■現在のネパール(前463?-383?)



- ・ 釈迦族の王子として生まれる。誕生時に将来の出世を予言されていた。
- ・ 幼少期から弱肉強食の世界にひどく悲しむなど、感受性が豊かで熟考する性格であった。
- ・ 結婚し子どもも生まれ順風満帆な暮らしであったが人生に悩む。四門出遊をきっかけに 29歳の時にバラモンの下へ出家した。
▲城の各門で老人・病人・死人を見て人生苦に触れた後、修行僧に会い心惹かれる
- ・ 修行者となった彼は 35歳で悟りを開く。悟りを開き真理に目覚めた者を**仏陀(ブッダ)**と呼ぶため、通称となった。

★**仏陀が悟ったこと** → 「苦が生じる原因は何か。苦を滅ぼす方法は何か。」

初めの数年間 極端な苦行に徹する → 半月に1度の食事まで追い込み、腹の皮を触れば背骨にまで触れるように
 6年後 [16] を悟る → 極端な苦行が無意味であると感じ、適度な努力として瞑想を中心とした修行へ
 35歳 菩提樹の下で悟りを開く → 悟った真理を仲間に説いていく。最初の説法は[17] と呼ぶ

【ブッダが悟った真理】 [18]

- 〈現状把握〉 ① [19]]… 人生における全てが苦である
 〈原因究明〉 ② [20]]… 万物は変化し、消滅するから時とともに変化し続ける
 ③ [21]]… それ自体で存在するものは無い (=ブラフマンを否定)
 〈問題解決〉 ④ [22]]… ②③を悟り煩惱を吹き飛ばすと、心の安らぎが実現する。
 = [23]] (ニルヴァーナ)

では、仏陀の考える苦とは何か。それを滅ぼして涅槃の境地に至るためにはどうすればよいか。

【苦の原因】 [24]

- ・ さまざまな事物に対する無知 (**癡: おろかさ**) = [25]] 無知で欲望のままに生きるから辛いんだ!
 - ↓
 - ・ 強い執着 好ましい対象への愛着 (**貪: むさぼり**)
 (我執) 好ましくない対象への嫌悪 (**瞋: いかり**)
- 貪・瞋・癡は 苦をもたらす煩惱の代表例 =

これらの真理を人に伝えるため、**四諦(4つの真理)**として変形させていく。続きは次回のプリントで!

+ α ブッダの名言 “自分を変えるのは自分だけ。どんなに大きな変化もすべてあなたの一歩から。”
 “他人の過ちを指摘する前に、自分の欠点に気づくことです。”

倫理プリント

バラモン教

インドの宗教

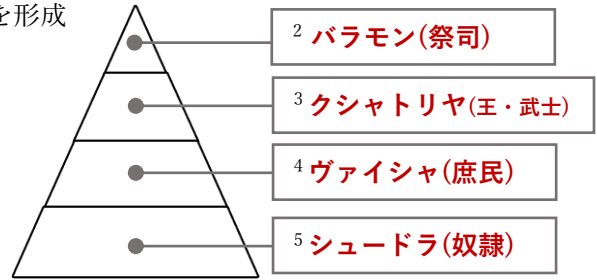


(i) 仏教以前の思想

■ **バラモン教** … インドで形成された宗教。自然界の現象を神格化した多神教であり、仏教の基となった。

前 15c 頃 アーリア人のインド侵入 → インドの思想と文化を形成

前 10c 頃 社会的身分制度 ([¹ **カースト制**]) が発達



カースト制度

- ・皮膚の色による差別と職業差別が組み合わさった身分制度
- ・階級によってつくることが出来る職業も固定化される
- ・現在は憲法で禁止しているが、所々に根強く残っている
- ・ブッダやヴァルダマーナはクシャトリヤ、ガンディーはヴァイシャ出身

■ **バラモン教の思想** … バラモンのみが神々への知識を保持し、儀礼をおこなう。

聖典『⁶ **ヴェーダ**』：紀元前 1000 年頃から紀元前 500 年頃にかけてインドで編纂された宗教文書の総称。

「ヴェーダ」とは、元々「知識」という意味。

※このヴェーダの一部で、哲学的部門をなすものを [⁷ **ウパニシャッド**] (奥義の書) といい、

バラモン教の根幹をなす高度な哲学的思想について記載されている。→ これらを研究する学問が ウパニシャッド哲学

思想の内容

★ [⁸ **輪廻**]：「生あるものは全て、生まれては死に、死んで生まれを繰り返す。」という考え方。

しかし、自分が来世どう生まれ変わるかはわからず、現世での行為 = [⁸ **業**] (⁹ **カルマ**) によって決まる。

Think ● これを信じている人はどうなるだろう…

次は地獄だろうか？害虫として生まれ変わる？来世への不安や恐怖に襲われる。



輪廻の循環から解き放たれることを [¹⁰ **解脱**] といい、どうしたらこれができるか？という問いが生まれる。

* [¹¹ **ブラフマン**] (**梵**) = 宇宙の究極的原理 (宇宙の全ての物を作った絶対的で永遠不変なもの)

* [¹² **アートマン**] (**我**) = 生まれ変わっても変わる事の無い、個人の内にいる自我のようなもの

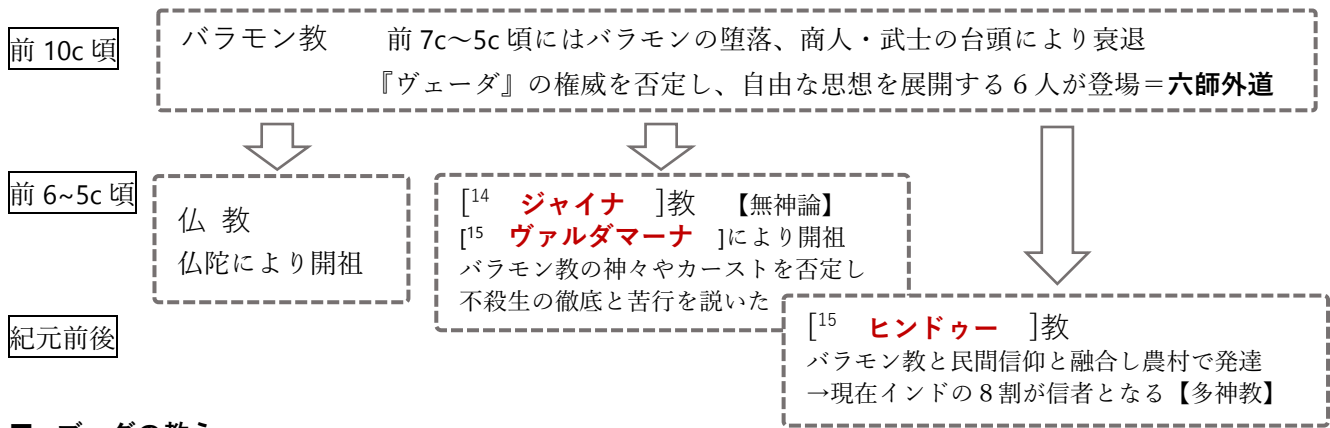
この2つは本質的には同一である = [¹³ **梵我一如**]

自我があるから死後も魂が巡り輪廻転生してしまう。しかし、1秒前の自分と今の自分が変化しているように肉体や精神は変化し続けるもの。結局、自我は幻に過ぎず、宇宙の物質の一部に過ぎないという考え方。

徹底した苦行(断食・いばらの上で寝る・立ちっぱなし etc)により両者が一体であると悟る境地に至れば、輪廻から脱出できる！と説いた。

前 7c~5c 頃 多くの都市、国家が形成 → 富を蓄積した王侯や商工業者の力が強まりバラモン衰退

(ii) バラモン教から仏教へ



■ ブッダの教え

ゴータマニシツダッタ ■ 現在のネパール(前463?-383?)



- ・ 釈迦族の王子として生まれる。誕生時に将来の出世を予言されていた。
- ・ 幼少期から弱肉強食の世界にひどく悲しむなど、感受性が豊かで熟考する性格であった。
- ・ 結婚し子どもも生まれ順風満帆な暮らしであったが人生に悩む。四門出遊をきっかけに 29 歳の時にバラモンの下へ出家した。
▲城の各門で老人・病人・死人を見て人生苦に触れた後、修行僧に会い心惹かれる
- ・ 修行者となった彼は 35 歳で悟りを開く。悟りを開き真理に目覚めた者を**仏陀(ブッダ)**と呼ぶため、通称となった。

★仏陀が悟ったこと → 「苦が生じる原因は何か。苦を滅ぼす方法は何か。」

- 初めの数年間 極端な苦行に徹する → 半月に 1 度の食事まで追い込み、腹の皮を触れば背骨にまで触れるように
- 6 年後 [¹⁶ 中道]を悟る → 極端な苦行が無意味であると気づき、適度な努力として瞑想を中心とした修行へ
- 35 歳 菩提樹の下で悟りを開く → 悟った真理を仲間に説いていく。最初の説法は[¹⁷ 初転法輪]と呼ぶ

【ブッダが悟った真理】 [¹⁸ 四法印]

- 〈現状把握〉① [¹⁹ 一切皆苦]・・・ 人生における全てが苦である
- 〈原因究明〉② [²⁰ 諸行無常]・・・ 万物は変化し、消滅するから時とともに変化し続ける
- ③ [²¹ 諸法無我]・・・ それ自体で存在するものは無い (=ブラフマンを否定)
- 〈問題解決〉④ [²² 涅槃寂靜]・・・ ②③を悟り煩悩を吹き飛ばすと、心の安らぎが実現する。
=[²³ 涅槃] (ニルヴァーナ)

では、仏陀の考える苦とは何か。それを滅ぼして涅槃の境地に至るためにはどうすればよいか。

【苦の原因】 [²⁴ 煩悩]

- ・ さまざまな事物に対する無知 (癡: おろかさ) = [²⁵ 無明] 無知で欲望のままに生きるから辛いんだ!
- ↓
- ・ 強い執着 好ましい対象への愛着 (貪: むさぼり)
 - (我執) 好ましくない対象への嫌悪 (瞋: いかり)
- 貪・瞋・癡は
苦をもたらす煩悩の代表例 = 三毒

これらの真理を人に伝えるため、**四諦(4つの真理)**として変形させていく。続きは次回のプリントで!

+ α ブッダの名言 “自分を変えるのは自分だけ。どんなに大きな変化もすべてあなたの一歩から。”
“他人の過ちを指摘する前に、自分の欠点に気づくことです。”